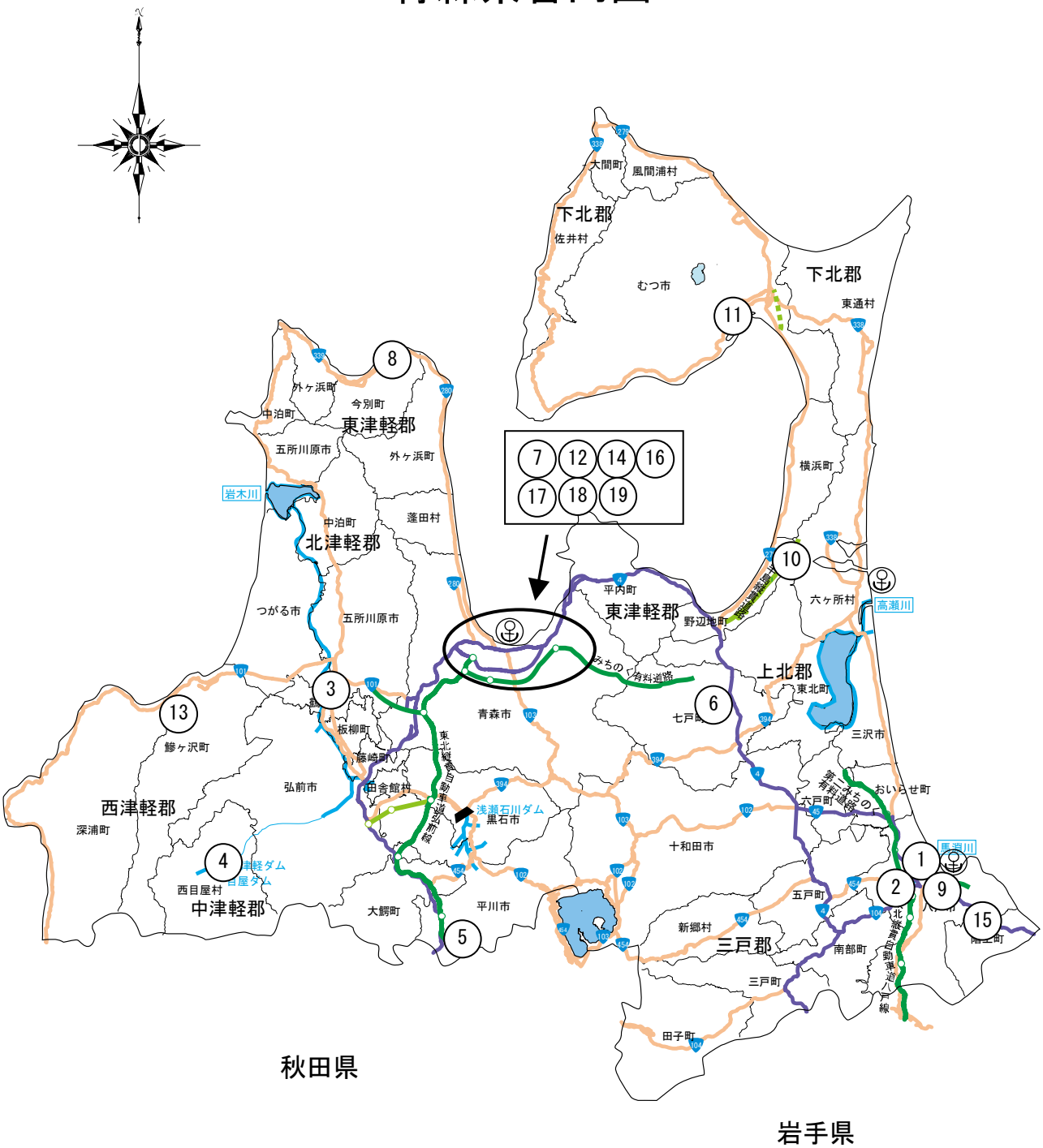
１．青　森　県

青森県管内図



凡　例	
	一級河川直轄管理区間
	直轄ダム（竣工）
	〃　（工事中）
	〃　（調査中）
	高規格道路等
	地域高規格道路
	一般国道（指定区間）
	一般国道（指定区間外）

※各番号に対応した事業内容等については次ページ一覧参照

【青森県】

No	区分		事業名（市町村名）	整備内容	事業規模	頁
1	河川	直轄	馬淵川根城地区直轄河川改修事業 （八戸市）	継続	築堤L=2,380m 家屋補償　19戸	4
2	河川	補助	土橋川床上浸水対策特別緊急事業 （八戸市）	完成	放水路　L=1,420m	5
3	河川	直轄	岩木川 鶴田地区消流雪用水導入事業 （北津軽郡鶴田町）	継続	揚水機場　1基 導水施設　1式	6
4	河川	直轄	津軽ダム建設事業 （中津軽郡西目屋村）	継続	重力式コンクリートダム 総貯水容量　140,900千m3	7
5	河川	補助	遠部ダム堰堤改良事業 （平川市）	継続	重力式コンクリートダム 総貯水容量　1,420千m3	8
6	河川	補助	倉越1号 急傾斜地崩壊対策事業 （上北郡七戸町）	完成	連続繊維補強土工 800m2	9
7	道路	直轄	一般国道4号 浪打交差点改良 （青森市）	完成	交差点改良（右折レーンの設置）	10
8	道路	補助	一般国道280号 与茂内橋外架替事業 （今別町東津軽郡）	完成	浜名橋　L=21.2m	11
9	道路	直轄	八戸・久慈自動車道　一般国道45号　八戸南道路 （八戸市～三戸郡階上町）	継続	暫定2車線　L=5.3km	12
10	道路	補助	下北半島縦貫道路　一般国道279号　有戸北バイパス （上北郡六ヶ所村～野辺地町）	継続	L=6.3km	13
11	港湾	補助	大湊港海岸大湊地区侵食対策事業 （むつ市）	継続	緩傾斜護岸　L=900m	14
12	道路	直轄	一般国道7号 青森環状道路 （青森市）	継続	完成4車線　L=4.4km	15
13	都市住宅	補助	地域住宅交付金 省エネモデル住宅建設事業 （西津軽郡鰺ヶ沢町）	完成	居住用住宅、モデルルーム	16
14	港湾	補助	青森港本港地区橋梁改良事業 （青森市）	部分供用	4車線、L=1,721m	17
15	都市住宅	補助	階上町公共下水道事業 （三戸郡階上町）	一部供用	事業計画人口：11,700人 事業計画面積：469.0ha	18
16	港湾	交付金	みなと振興交付金「青森港 文化観光拠点のみなとオアシスづくり支援事業」 （青森市）	継続	護岸　L=260m 遊歩道　L=260m	19
17	都市住宅	交付金	まちづくり交付金（新幹線新青森駅・青森駅周辺地区） （青森市）	継続	道路、駐輪場、モニュメント、 文化観光交流施設	20
18	都市住宅	補助	都市計画道路 内環状線（石江） （青森市）	継続	L=0.5km	21
19	都市住宅	補助	石江土地区画整理事業 （青森市）	継続	A＝46.2ha	22

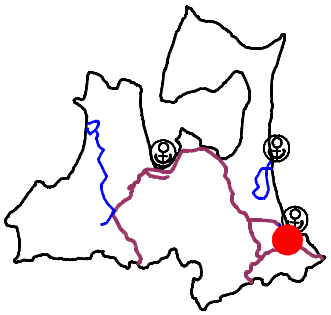
安全で安心できる地域づくり　自然災害への備え

事業名	馬淵川根城地区整備事業（直轄） （青森県八戸市）

事業着手：平成16年度	完成・供用の目標年度：平成20年度完成予定

事業の必要性・事業の概要

青森県



「事業の必要性」

馬淵川根城地区には、無堤区間のため洪水時の流下能力が低いまま残っている区間があります。近年では平成14，16，18年と5年で3回もの洪水にみまわれ、家屋浸水が相次いで発生していることから、治水安全度の向上が急務となっています。

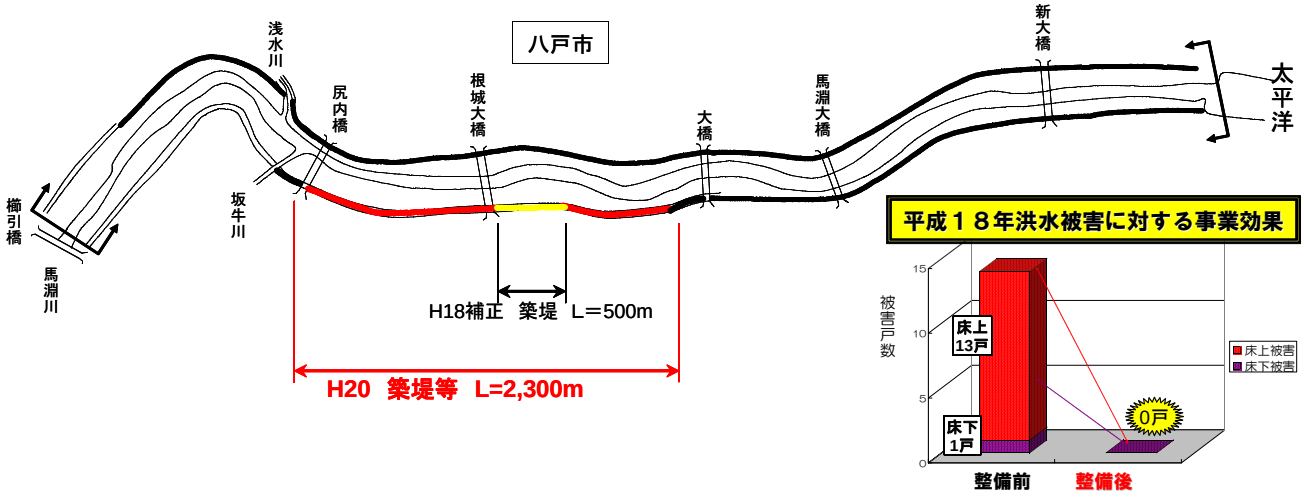
「事業の概要」

宅地化を抑制するため河川予定地を指定(H19.3済)するとともに、堤防整備を行い平成18年洪水の浸水家屋（14戸）の被害解消と、計画高水位以下の想定浸水家屋数約100戸についての浸水被害を軽減させます。









平成20年度の予定

○平成20年度は、引き続き築堤等を推進し、事業の完成を目指します。

事　業　効　果

○平成18年洪水で浸水した14戸の家屋について、同等規模の洪水に対する浸水被害を解消します。
○築堤により、計画高水位以下の想定浸水家屋数約100戸について浸水被害の軽減を図ります。

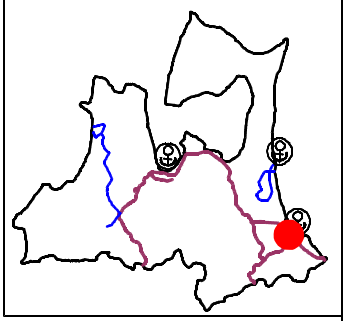
安全で安心できる地域づくり　自然災害への備え

事業名	土橋川（つちはしがわ）床上浸水対策特別緊急事業（補助：事業主体　青森県） （青森県八戸市）

事業着手：平成15年度	完成・供用の目標年度：平成20年度完成予定

事業の必要性・事業の概要

青森県

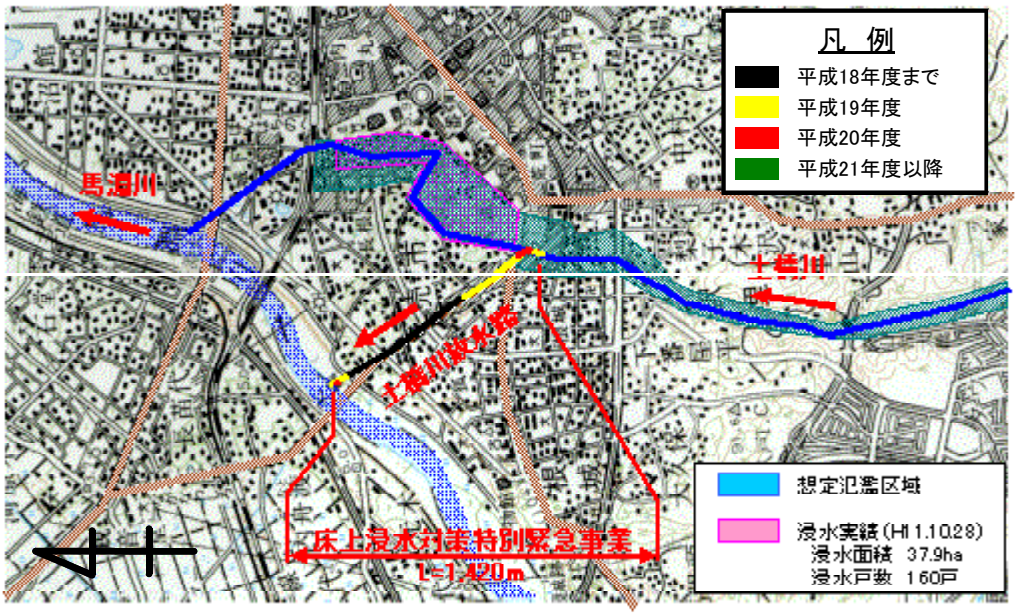


「事業の必要性」

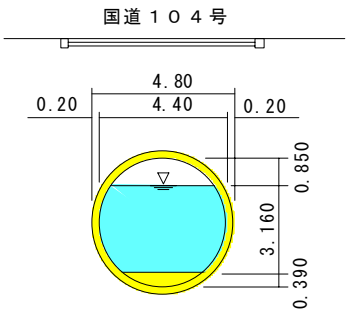
八戸市の市街地を貫流する土橋川は流下能力が不足していることから、沿川では度々洪水被害を被っており、平成11年10月には床上・床下160戸、続く平成13年9月には床上・床下浸水44戸の浸水被害が発生しています。また、この間を含め平成11年から4年連続で避難勧告が発令されていることから、早急に治水安全度の向上を図る必要があります。

「事業の概要」

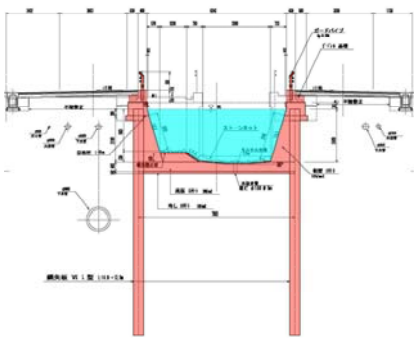
平成11年規模の洪水が再来しても、土橋川からの氾濫による浸水等を解消するため、放水路の整備を実施します。

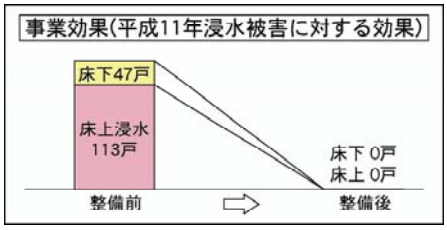


本体工標準断面図



護岸工標準断面図





平成20年度の予定

○平成20年度は、掘削、護岸、管理設備を実施し、事業の完成を目指します。

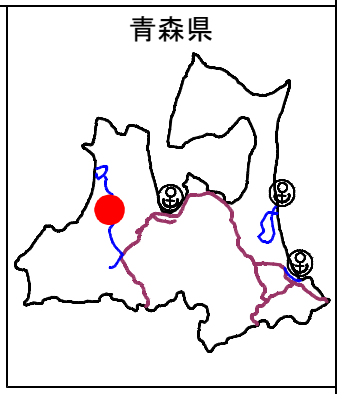
事　業　効　果

○事業実施により、H11被災と同規模洪水に対して再度災害の防止（床上113戸、床下47戸の解消）を図ります。

安全で安心できる地域づくり　雪に強く安全で快適な地域づくり

事業名	鶴田（つるた）地区　消流雪用水導入事業（直轄） （青森県北津軽郡鶴田町）
事業着手：平成19年度	完成・供用の目標年度：平成22年度完成予定

事業の必要性・事業の概要



「事業の必要性」

鶴田地区は、昭和19年には最大積雪深が212cmを記録するなど、日本でも有数の豪雪地帯となっています。排雪先としては、地域内の小河川や歩道が利用されていましたが、小河川では冬期に水量が不足するため、河道閉塞による流水の阻害や道路交通への障害など、地域住民の生活に大きな支障をきたしていることから、積雪対策が重要な課題となっています。

「事業の概要」

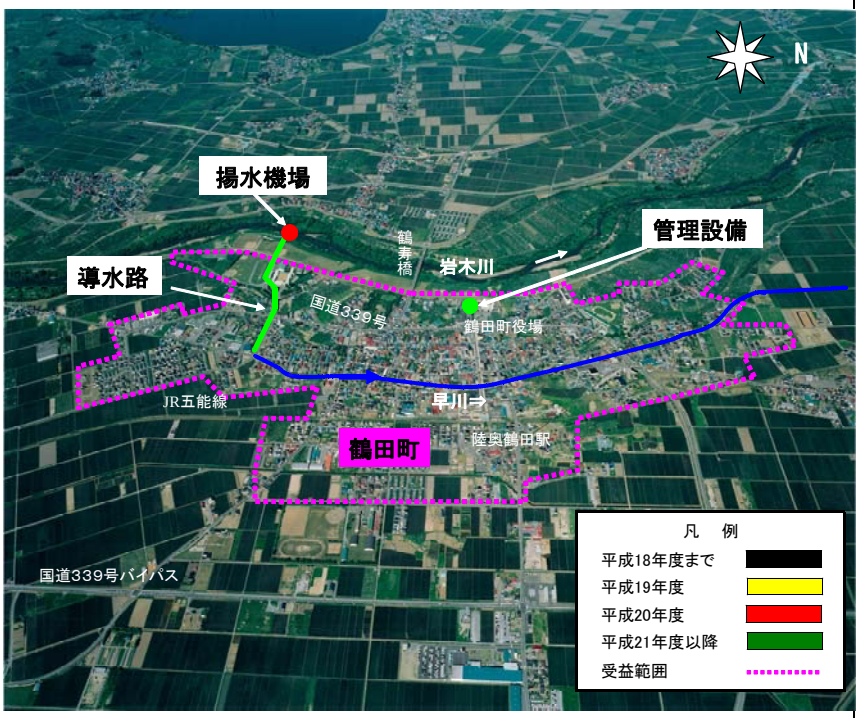
小河川の流況改善（流量増）を目的として、水量の豊富な岩木川から消流雪用水を導入するための取水設備、導水路、管理設備等を整備します。

揚水機場　1式、導水路　770m、管理施設　1式


積雪により河道が閉塞した状況


積雪により通学が困難な状況


通行車両が交差困難な状況




導　入　前


導入後（イメージ）

平成20年度の予定

○平成20年度は揚水機場の整備を行い、事業の進捗を図ります。

事　業　効　果

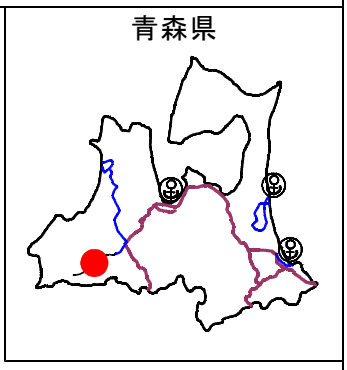
○冬期間の快適で住みよい生活環境を確保します。
○除排雪作業の負担が軽減されます。
○道路交通安全の向上が図られます。

安全で安心できる地域づくり　自然災害への備え

事業名	津軽ダム建設事業（直轄） （青森県中津軽郡西目屋村）

事業着手：平成3年度	完成・供用の目標年度：平成28年度完成予定

事業の必要性・事業の概要



「事業の必要性」

津軽ダムは、岩木川の本川上流、中津軽郡西目屋村藤川・居森平地内に建設中の多目的ダムです。

津軽ダムは、岩木川本川の洪水調節、既得用水の補給・河川環境の保全等流水の正常な機能の維持、かんがい用水の供給、水道用水の供給、工業用水の供給、発電の6つの役割を担います。

「事業の概要」

○ダム諸元

・総貯水容量：1億4,090万m^3　・高さ：97.2m　・堤頂長：342.0m

・堤体積：70.4万m^3　・ダム型式：重力式コンクリートダム

○これまでの事業経緯

平成8年度　下流工事用道路着手

平成14年度　付替県道着手

○総事業費：1,620億円、完成工期：平成28年度

（平成19年 8月21日：基本計画変更告示）

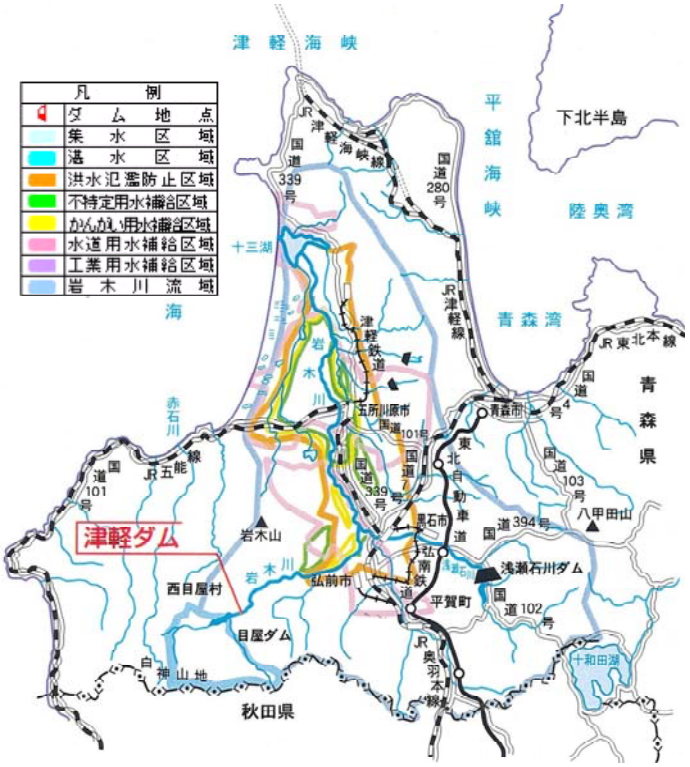
津軽ダム完成予想図



平成16年9月台風出水状況（岩木川：弘前市）



位置図及び計画概要図



平成20年度の予定

○本体建設工事に着手するとともに、本体関連工事を実施し進捗を図ります。

事　業　効　果

○ダム地点における洪水量（計画高水流量）3,100m^3/sのうち2,940m^3/sをダムに貯め、160m^3/sを下流に放流する洪水調節を行うことにより、関連事業の整備と併せて岩木川本川の洪水被害の軽減を図ります。

○弘前市への水道用水の供給をはじめとする各種用水の安定的な確保を図るとともに、渇水被害の軽減を図ります。

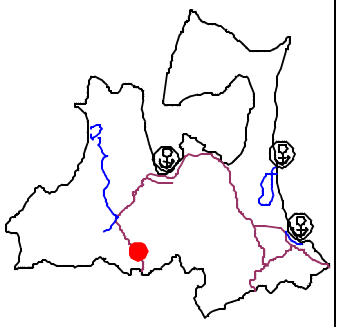
安全で安心できる地域づくり　自然災害への備え

事業名	遠部（とおべ）ダム堰堤改良事業（補助：事業主体　青森県） （青森県平川（ひらかわ）市）

事業着手：平成17年度	完成・供用の目標年度：平成21年度完成予定

事業の必要性・事業の概要

青森県



「事業の必要性」

遠部ダムは昭和51年に完成した治水ダムで、管理開始後、約30年が経過して、

・ゲート類の老朽化による漏水・腐食

・ダム諸量装置の老朽化による障害発生

によりダム管理に支障をきたしています。このため緊急的に施設及び機器の更新が必要となっています。

クレストゲート腐食



コンジットゲート漏水



「事業の概要」

○洪水吐きのゲートレス化：洪水調節（開度一定方式→自然調節方式）

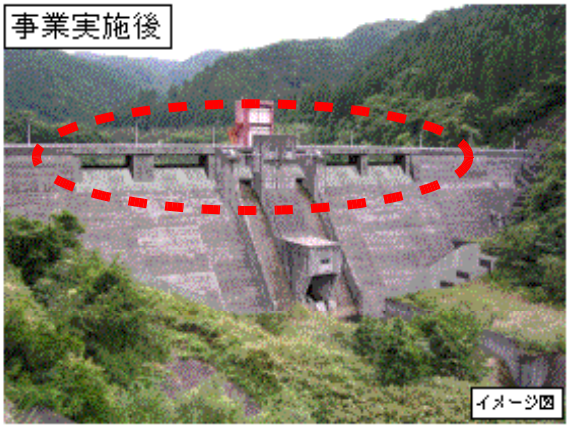
○管理設備更新　　：ダム情報設備、通信設備、CCTV

事業実施前



堰堤改良事業

事業実施後



平成20年度の予定

○平成20年度は、平成21年度完成を目指し、洪水吐きのゲートレス化工事（放流設備改良工事）を実施し、事業の進捗を図ります。

事　業　効　果

○ゲートレス化によるダム管理費のコスト縮減及び管理の簡素化が図られます。

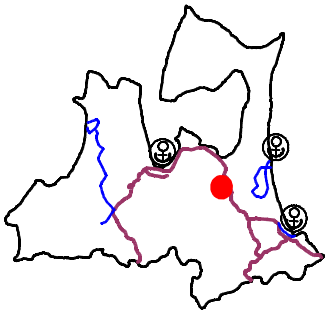
○ダムコン更新によるダム諸量装置の信頼性の向上とダム監視体制の強化を図ります。

安全で安心できる地域づくり　自然災害への備え

事業名	倉越（くらこし）1号急傾斜地崩壊対策事業（補助：事業主体　青森県） （青森県上北郡七戸町）
事業着手：平成19年度	完成・供用の目標年度：平成20年度完成予定

事業の必要性・事業の概要

青森県

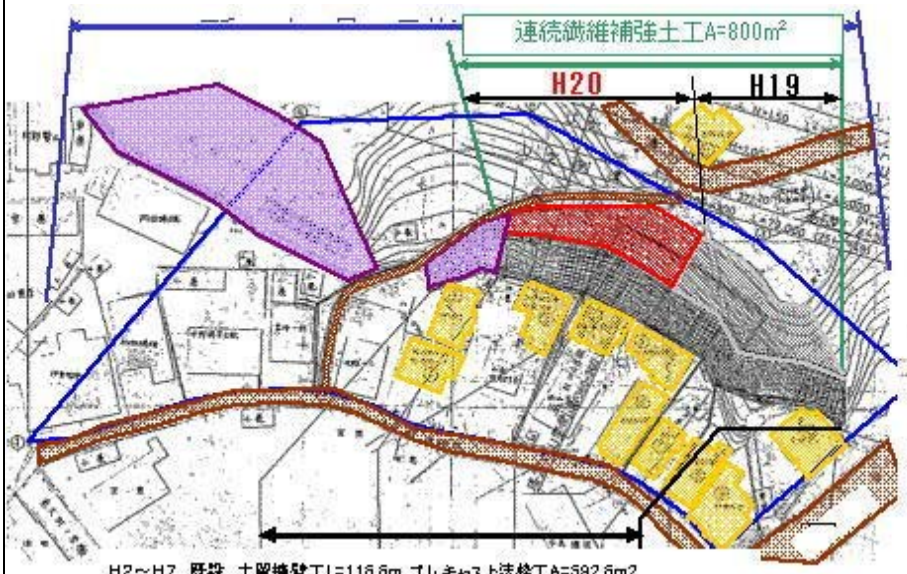


「事業の必要性」

七戸町倉越区域は、保全対象に人家11戸の他、国道4号と町道東大町倉越線を含む急傾斜地です。平成2年度には、一部擁壁工及び法枠工を実施していますが、その後未処理斜面内に崩壊地及び倒木が確認され拡大の恐れが高いため、早急な対策を実施し人家及び人命の保護・保全を図ります。なお、ソフト対策として平成16年度に土砂災害危険箇所図の配布及び県HP上での公開を実施し、地域住民に対して周知を行っています。

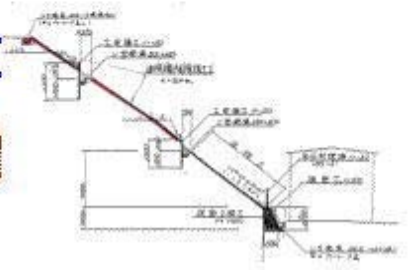
「事業の概要」

斜面の崩壊防止及び景観へも配慮し、連続繊維補強土工を実施します。



H2～H7　既設　土留擁壁工L=116.6m　プレキャスト法枠工A=592.6m2





平成20年度の予定

○平成20年度は、連続繊維補強土工を実施し、事業の完成を図ります。

事　業　効　果

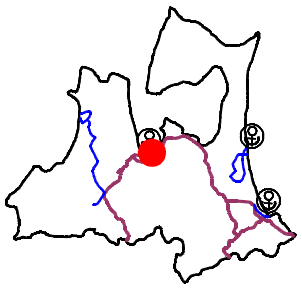
○事業実施により、人家11戸、国道4号及び町道が保全されます。

安全で安心できる地域づくり　日常生活における安全・安心対策の強化

事業名	一般国道4号　浪打（なみうち）交差点改良（直轄） （青森県青森市）
事業着手：平成20年度	完成・供用の目標年度：平成20年度完成予定

事業の必要性・事業の概要

青森県

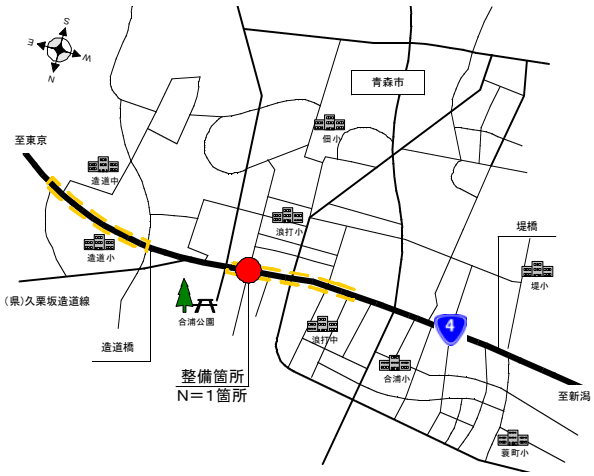


「事業の必要性」

当該箇所は、青森県青森市の北部に位置する国道4号と市道の交差点で、青森市中心市街地への流入部となっていますが、右折車線がなく、出会頭・追突事故が発生しています。

「事業の概要」

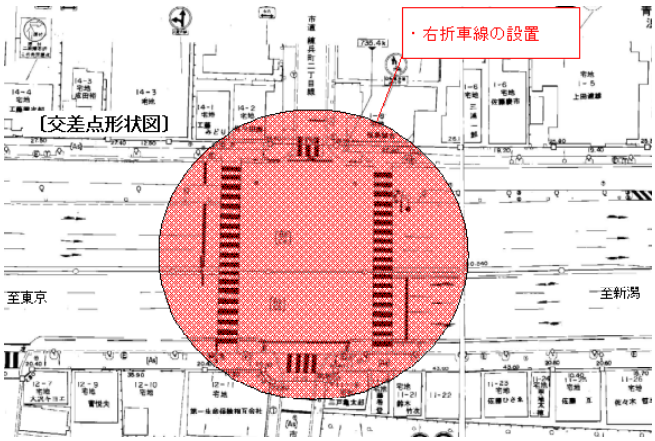
当該交差点の交通事故を削減するため、出会頭・追突事故の対策として、右折車線の設置による交差点改良を行うものです。



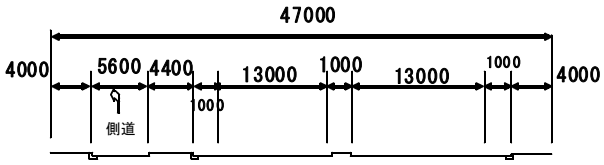
【位置図】



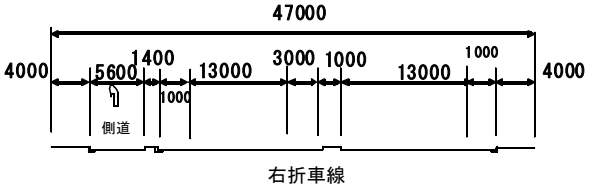
【現況写真】



【交差点形状図】



【現況】



【計画】

平成20年度の予定

○交差点形状の改良（右折車線の新設）を実施し、事業の完成を目指します。

事　業　効　果

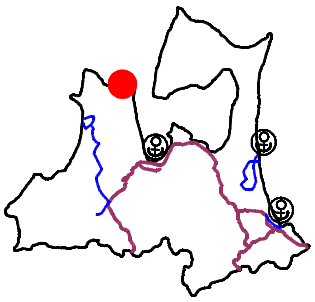
○安全で円滑な交通を確保し、事故の削減を図ります。

安全で安心できる地域づくり　日常生活における安全・安心対策の強化

事業名	一般国道280号　与茂内橋外架替事業（補助：事業主体　青森県） （青森県東津軽郡今別町）
事業着手：平成19年度	完成・供用の目標年度：平成20年度完成予定

事業の必要性・事業の概要

青森県



「事業の必要性」

一般国道280号は緊急輸送道路に位置づけられた重要な路線ですが、与茂内橋と浜名橋は、塩害による損傷が急激に進んでおり、早急な対策が必要となっています。

「事業の概要」

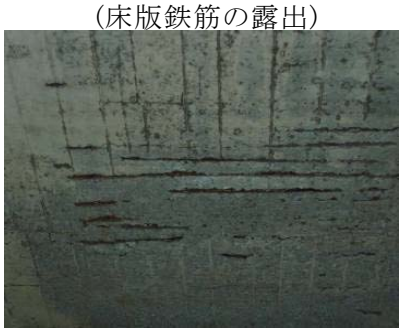
与茂内橋は、橋梁耐震補強3ヶ年プログラムに位置づけられた橋梁ですが、塩害による損傷が激しいため補強による対策が困難なことから架替による耐震対策を実施し、安全で円滑な交通を確保するものです。

浜名橋は、塩害による損傷が激しいため補修による対策が困難なことから架替による健全度の回復を図り、安全で円滑な交通を確保するものです。

▼与茂内橋の損傷状況（1）
（塩害による桁の腐食）



▼与茂内橋の損傷状況（2）
（床版鉄筋の露出）



▼浜名橋の損傷状況（1）
（塩害による鋼版接着の腐食）



▼事業箇所図



▼浜名橋の損傷状況（2）
（鉄筋の露出・はらみだし）



平成20年度の予定

○平成20年度は、浜名橋の架替を実施し、事業の完成を図る予定です。

事　業　効　果

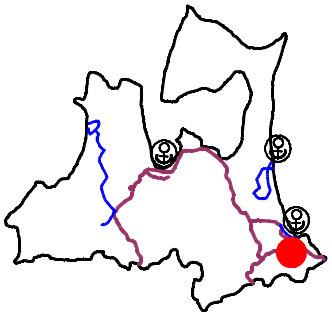
○緊急輸送道路における安全で円滑な交通が確保されます。

強い東北の創造　**地域間の交流・連携の強化、広域的な生活圏の形成**

事業名	八戸・久慈自動車道　一般国道45号　八戸南道路（直轄） （青森県八戸市～青森県三戸郡階上町）
事業着手：平成7年度	完成・供用の目標年度：平成20年代前半完成予定

事業の必要性・事業の概要

青森県



「事業の必要性」

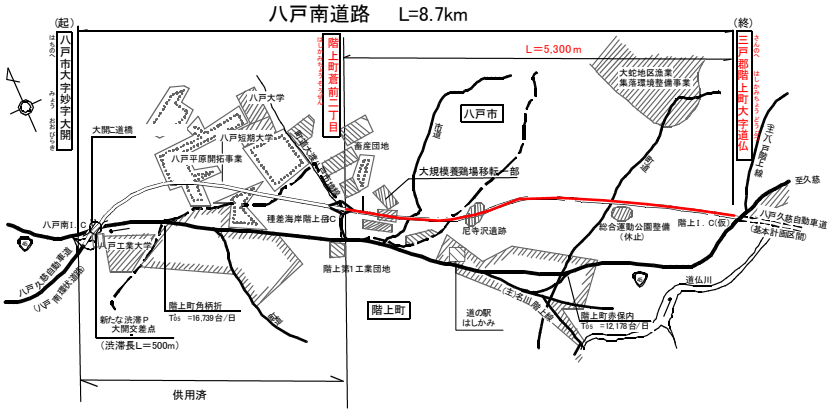
本路線は、青森県八戸市と岩手県沿岸北部の久慈市との連携交流を図り、さらに、八戸市内の交通混雑の緩和、主要施設へのアクセス向上等を目的とする延長8．7kmの自動車専用道路です。

平成7年度から事業着手し、平成19年度に延長3．4kmの暫定2車線を完了しています。

また、八戸南環状道路を経て、東北縦貫自動車道八戸線と直結し、効率的な高速道路網を形成します。

「事業の概要」

八戸南道路の整備により、主要渋滞ポイント「大開交差点」を含む八戸市内の交通混雑の緩和や、救急活動の際には八戸地域の高次医療施設（八戸市民病院）へのスムーズな救急搬送が期待されます。さらに、並行する主要幹線道路が一般国道45号のみであることから、災害等により被災を受けた場合、緊急輸送道路としての役割を果たすなど、地域の発展を支える連携交流のネットワークとなる事が期待されています。

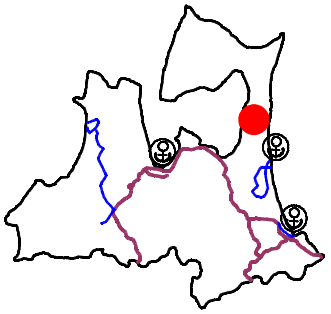

八戸南道路　L=8.7km
(起)
八戸市大字妙字大開
(終)
階上町道前二丁目
L＝5,300ｍ
八戸市
階上町
大開二道橋
八戸大学
八戸短期大学
八戸平原開拓事業
畜産団地
大規模養鶏場移転一部
大蛇地区急傾斜地崩壊対策事業
大蛇地区急傾斜地崩壊対策事業
大蛇地区急傾斜地崩壊対策事業

強い東北の創造　地域間の交流・連携の強化、広域的な生活圏の形成

事業名	下北半島縦貫道路　一般国道279号　有戸北(ありとさた)バイパス （補助：事業主体　青森県）　（青森県上北郡六ヶ所村(かみきたぐんろっかしょむら)～野辺地町(のへじまち)）
事業着手：平成12年度	完成・供用の目標年度：平成20年代中頃暫定供用予定

事業の必要性・事業の概要

青森県



「事業の必要性」

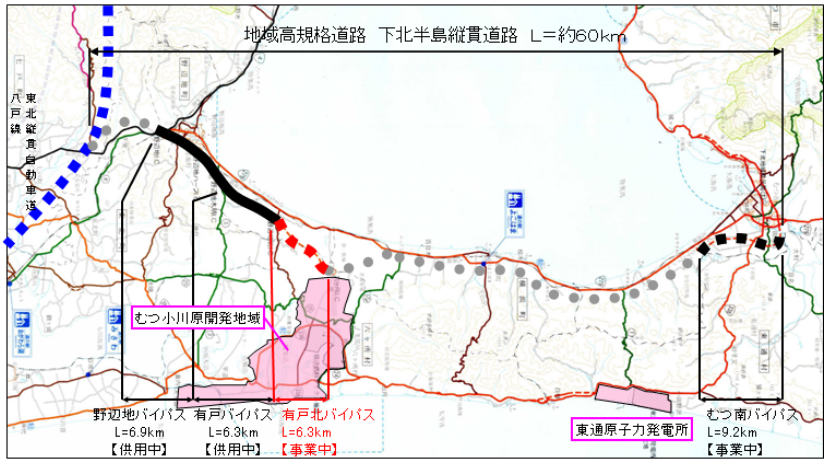
一般国道279号は、下北半島を縦貫し、下北地域と県南部地域を連結する幹線道路です。

当該区間では、一般国道279号とJR大湊線との平面踏切、急勾配、急カーブなどの線形不良箇所があり、定時性や安全性を確保するため早期の対策が必要となっています。また、国家エネルギープロジェクトを進めている「むつ小川原開発地域」を支援するためのアクセス機能の強化が求められています。

「事業の概要」

下北半島縦貫道路は、下北地方生活圏の中心都市のむつ市と東北縦貫自動車道八戸線を結ぶ延長約60kmの地域高規格道路です。これまでにL=13．2kmを供用しており、平成12年度から、有戸北バイパスL=6．3kmについて事業を行っています。

また、平成15年度から、むつ南バイパスL=9．2kmが事業中です。



▲位置図



▲ｱｯﾌﾟﾀﾞｳﾝの激しい国道279号





▲むつ小川原開発地域へのアクセス機能を強化します



▲整備が進む有戸北バイパス
（野辺地町上空から六ヶ所村方向を望む）

平成20年度の予定

○改良工事を推進し、事業の進捗を図ります。

事　業　効　果

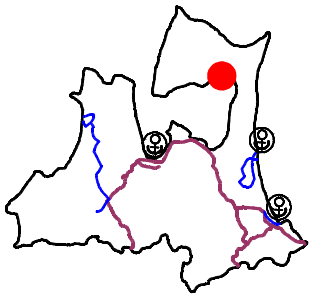
○国道279号の線形不良箇所の解消が図られます。
○むつ小川原開発地域へのアクセス機能が強化されます。
○高速ネットワークの形成により、下北地方生活圏の連携が強化されます。

事業名	大湊（おおみなと）港海岸大湊（おおみなと）地区　侵食対策事業（補助：事業主体　青森県） （青森県むつ市）

事業着手：平成12年度	完成・供用の目標年度：平成23年度完成予定

事業の必要性・事業の概要

青森県

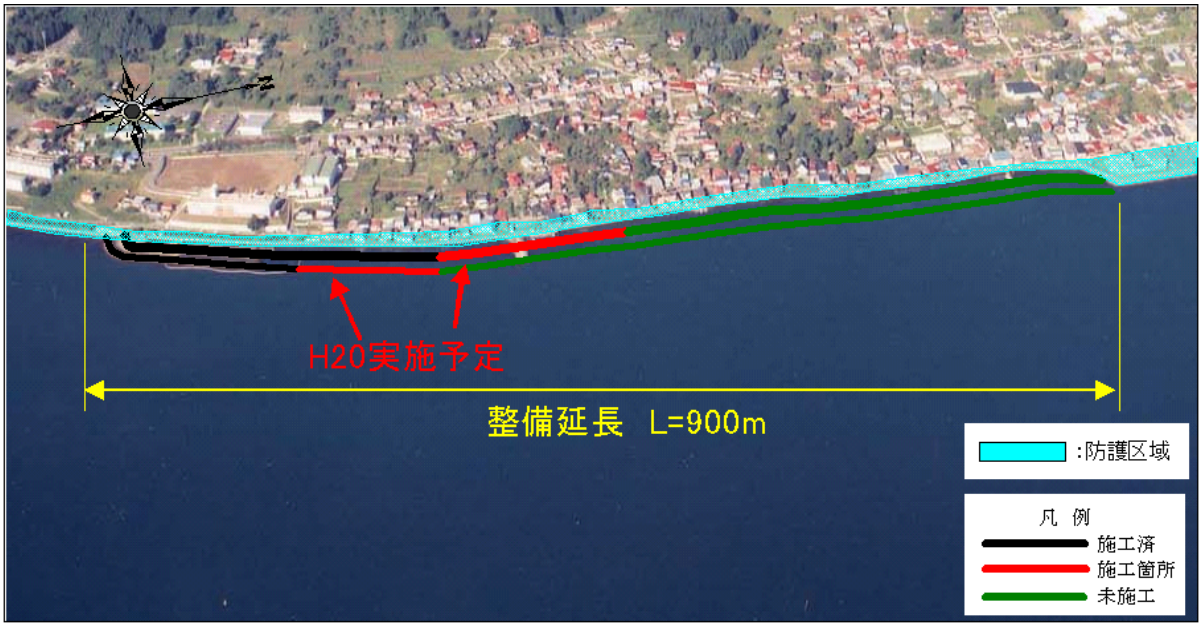


「事業の必要性」

既設の直立護岸は昭和43～48年度に建設され、基礎部の洗掘、ひび割れ等の老朽化が著く、背後に人家が密集していることからも老朽化対策が急務となっています。さらに近年、地域住民から海と親しめる豊かな生活空間の復活も求められ、天然記念物のコクガンの越冬地でもあることから海岸防護と併せて「エコ・コースト事業」の導入により生態系など自然環境にも配慮した整備が必要となっています。

「事業の概要」

本事業は、国土保全、人命・財産等の保護とあわせて、海域環境保全を行うものです。教育・町内・観光・自然保護団体関係者等による地域懇談会を開催し「自然生態系との共生と潤い・親水性に富んだ海岸を創造する」ことをコンセプトとして、緩傾斜護岸（L＝900m）を整備するもので、基礎部分に捨石による浅瀬を形成し、自然石による緩傾斜護岸部分を設け、コクガンのエサとなるアマモ・アオサなどの海草の「藻場」としての再生を図ります。







平成20年度の予定

○平成20年度は、緩傾斜護岸の整備を実施し、事業促進を図ります。

事　業　効　果

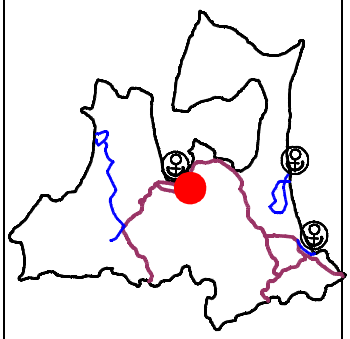
○波浪等による侵食被害が解消されます。
○水辺のふれあいや自然との共生が図られた海辺が創造されます。
　防護面積　・・・・　約15ha

事業名	一般国道7号　青森環状道路（直轄） （青森県青森市）

事業着手：平成7年度	完成・供用の目標年度：平成21年度完成供用予定

事業の必要性・事業の概要

青森県



「事業の必要性」

本路線は、青森市内における国道4号と国道7号の交通混雑の解消及び東北縦貫自動車道八戸線青森中央ICへのアクセス強化等を目的としています。

また、青森市西部には、平成22年度開業予定の東北新幹線新青森駅（仮称）の設置が計画されており、新駅と県内各地を結ぶアクセス道路として、一体的な整備による利便性向上や整備効果の早期発現が望まれています。

「事業の概要」

青森環状道路は、都心部から放射状に延びる道路を相互に連絡し、郊外と市街地の流出入交通を分散導入するとともに、主要渋滞ポイント「筒井交差点」、「駒込交差点」の渋滞緩和、さらには、新幹線新駅（H22開業予定）及び青森中央IC等の交通拠点間の連携を図り円滑な都心交通処理として都市機能が確保されます。

また、当事業箇所内には、環境省指定の絶滅危惧種Ⅱ類に指定された「北限のメダカ」が確認されたことから、「メダカ対策検討懇談会」を設立し、ワークショップの開催などを経て、平成14年度の全線2車線供用にあわせ整備したビオトープを「共生の郷メダカ郷和国」として開園しています。



▲位置図



▲青森環状道路渋滞（駒込交差点）



▲青森環状道路渋滞（筒井交差点）



▲ビオトープ全景

平成20年度の予定

○青森市筒井～同市平新田（L=5.1km）の改良・舗装・植栽工事を実施し、事業の推進を図る予定です。

事　業　効　果

○国道4号及び国道7号の渋滞緩和を図ります。
（主要渋滞ポイント：筒井交差点の渋滞長650m、駒込交差点の渋滞長700m）

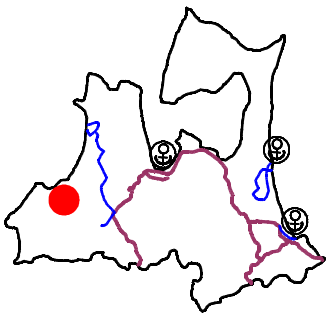
○「共生の郷　メダカ郷和国」整備により、動植物の保全に寄与する他、市民の学習の場やいこいの場として活用。

事業名	地域住宅交付金 省エネモデル住宅建設事業（補助：事業主体　鯵ヶ沢町（あじがさわ）） （青森県鯵ヶ沢町（あじがさわ））

事業着手：平成18年度	完成・供用の目標年度：平成20年度完成予定

事業の必要性・事業の概要

青森県



「事業の必要性」

近年、エネルギー消費に起因する環境問題や、地球温暖化が引き起こす気候変動が深刻な問題となり、その解決へ向けた取り組みが求められています。

鯵ヶ沢町では、恵まれた自然・生活環境を維持し、未来へ引き継ぎ、環境・エネルギー問題への取り組みを積極的に推進するために、「鯵ヶ沢町地域省エネルギービジョン(H17.2)」を策定しています。

当ビジョンでは、暖房に使用するエネルギーの削減を重要な課題とし、「省エネ型モデル住宅アクションプラン」を定め、「住」の省エネルギーを進めるため、省エネ住宅の普及促進を図っています。

「事業の概要」

鯵ヶ沢町において、住民が住宅を新築・建替え・改修するときのモデルとなる省エネルギーに配慮した住宅を建設し、外断熱工法と充填断熱工法（従来工法で内側断熱を指す）との性能・コストの比較及びエネルギー使用量等のデータを収集し、その情報を公開することにより省エネ住宅及び設備の普及促進を図ります。

具体的には、発電設備（風力及び太陽光）と、省エネ型の暖房・給湯家電を備えた住宅を2棟建設します。1棟には実際に住んで生活してもらい、居住状況やエネルギー使用データの収集とその公開を行います。もう1棟は、モデルルームとして見学や宿泊をしてもらい、省エネ住宅を身近に感じてもらうこととしています。



＜省エネモデル住宅のイメージ写真＞

提供：岩手県建築住宅課

＜省エネモデル住宅＞

■省エネルギー性能に優れた住宅としての規模・設備を備えた住宅を建設します。

・標準家族（4人／世帯）が居住する規模

・光熱費節減（二酸化炭素（Co2）排出量抑制）のための発電設備（風力及び太陽光）、省エネ型の暖房・給湯設備を設置

平成20年度の予定

○平成20年度に、居住用住宅とモデルルームの2棟を建設します。

事　業　効　果

○省エネルギーに対する住民意識の向上や、省エネ住宅及び設備の普及促進に寄与します。
○省エネ対策に取り組んだ住宅によるCO2の削減は、地球温暖化対策に寄与します。

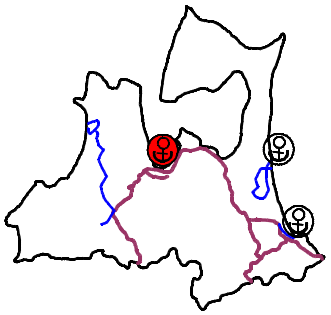
美しい東北の実現　循環型社会の構築

事業名	青森港本港地区橋梁改良事業　（補助：事業主体　青森県） （青森県青森市）

事業着手：平成14年度	完成・供用の目標年度：平成23年度完成予定

事業の必要性・事業の概要

青森県



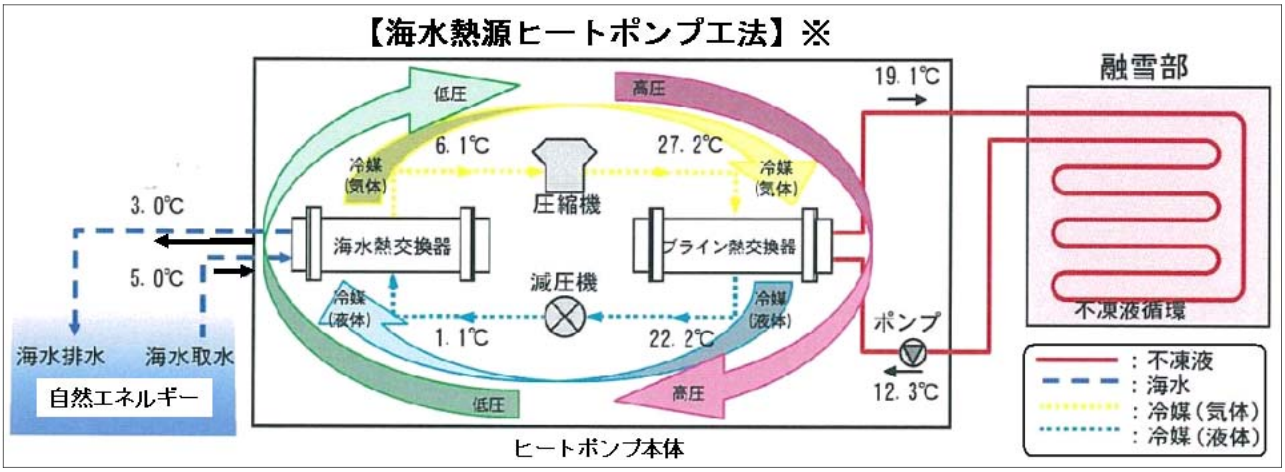
「事業の必要性」

青森市は、全国の県庁所在地の中で唯一、国の特別豪雪地帯に指定される国内外でも有数の豪雪都市であり、冬期間における交通の安全確保が求められています。青森ベイブリッジは海に面していることから路面が凍結し易く、冬期のスリップ事故防止対策が求められています。

「事業の概要」

本事業はエネルギー資源を効率的に活用し、冬期間のスリップ事故を減少させるため、青森ベイブリッジに海水熱を利用した消融雪施設（L=1，721m）を整備し、地球に優しいクリーンエネルギーの活用を推進します。





※冬期間は外気よりも温かい海水熱を活用し、融雪する仕組みである。これまでの海水散水による消雪対策では塩害が問題となっていたが、同システムは、取水した海水の熱だけを回収しその熱で温めた不凍液をパイプに通して融雪する。海水は再び海へ戻すため塩害は発生しない上、エネルギー効率が電気熱を利用した融雪より3～5倍も高いクリーンエネルギーである。

平成20年度の予定

○平成20年度は、熱源設備の整備を実施し冬期凍結の危険性が高い、下り坂（本町方面）の凍結防止箇所の機能確保を行い、下り坂の供用を目指します。

事　業　効　果

○海水熱（自然エネルギー）を有効活用する事により、経済的に消融雪を行うことが出来ます。
○路面凍結防止により、スリップ事故が解消され、一部供用している沖館方面では、毎年のように発生していた事故が解消されています。

事業名	階上町公共下水道（補助：事業主体　階上町） （青森県三戸郡階上町）

事業着手：平成11年度	完成・供用の目標年度：平成20年度一部供用予定

事業の必要性・事業の概要

「事業の必要性」

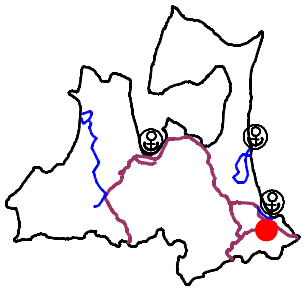
下水道事業は、生活環境、公衆衛生の向上や公共用水域の水質保全等に資するため、事業を促進しているところですが、東北地方における処理人口普及率は56.7%（平成18年度末）と全国平均（70.5%）を大きく下回っています。

特に人口5万人未満の市町村の普及率は42.8%と低く、未だ下水道を使用していない町村もあるため、早期供用開始に向け効率的・効果的な整備促進が必要となっています。

処理人口普及率(平成18年度末)

県名	処理人口	普及率
青森県	72万人	49.7%
岩手県	66万人	48.1%
宮城県	173万人	74.1%
秋田県	61万人	53.1%
山形県	80万人	66.6%
福島県	92万人	44.1%
東北合計	545万人	56.7%
全国合計	8，961万人	70.5%

青森県



「事業の概要」

階上町公共下水道の事業計画人口11，700人、事業計画面積469haの事業となっており、汚水処理の普及促進を図ります。





＜茨島浄化センター完成予想図・状況写真＞



・茨島浄化センターで浄化された放流水は河川を通じて太平洋に至ります。下水道整備により公共用水域の水質保全等が図られます。

＜　河口付近写真　～放流水は河川から太平洋に至る～　（河口：写真左上）　＞

平成20年度の予定

○階上町公共下水道の平成20年度一部供用にむけた管渠や処理場の整備促進を支援します。

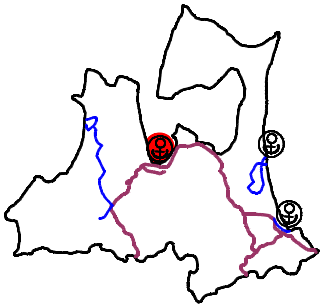
事　業　効　果

○新たに下水道を使用できる人口が増加し、生活環境の向上や公共用水域の水質改善が図られます。

事業名	みなと振興交付金「青森港　文化観光拠点のみなとオアシスづくり支援事業」 （青森県青森市）　（補助：事業主体　青森県、青森市）
事業着手：平成19年度	完成・供用の目標年度：平成23年度完成予定

事業の必要性・事業の概要

青森県



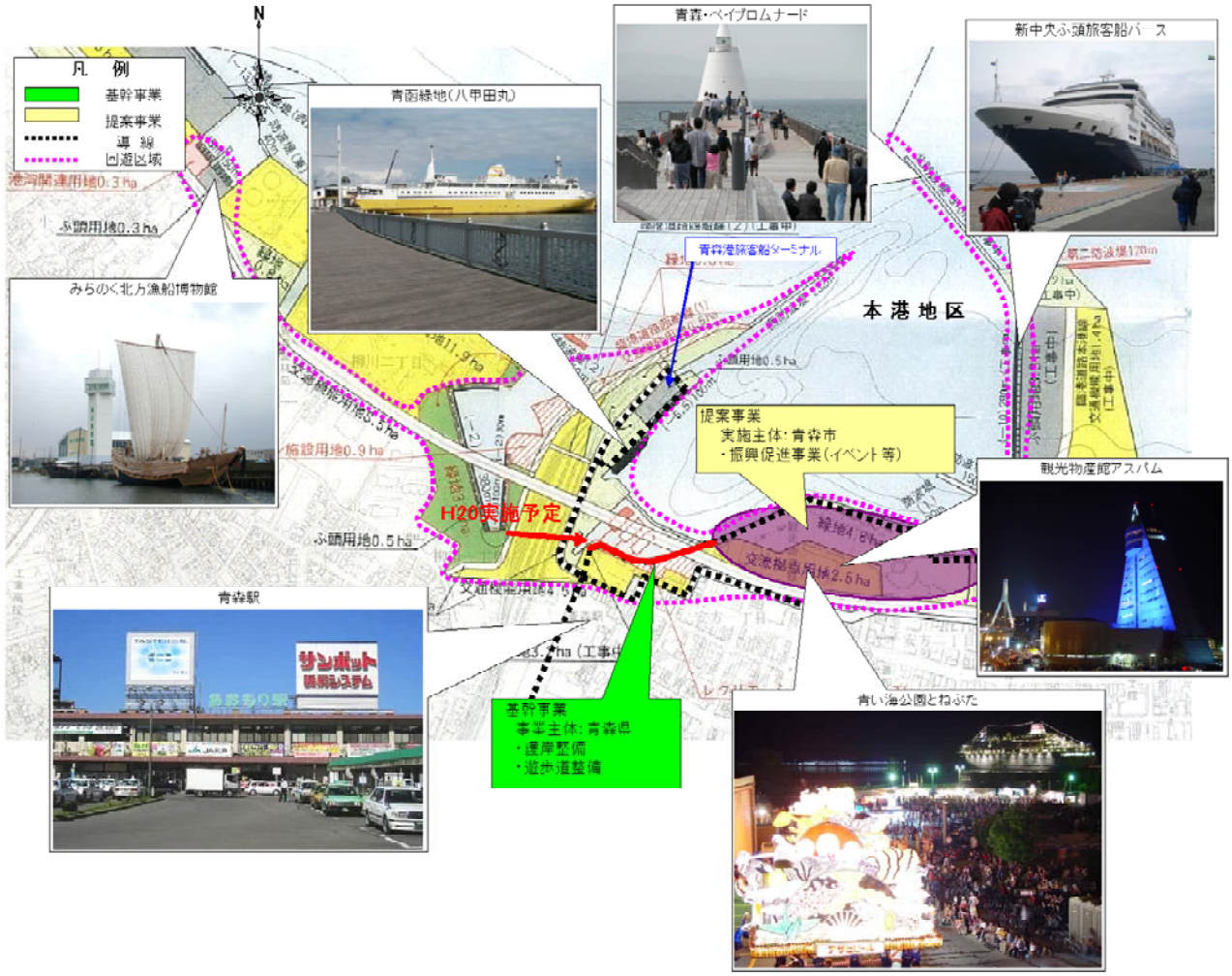
「事業の必要性」

青森市では、平成22年度の新幹線開業を見据え、まちとみなとの融合による歴史・文化・観光交流空間整備を行う予定です。

この地区に点在する交流施設の連携・回遊性を強化するため、現在、導線が確保されていない青函緑地と青い海公園間において、周辺地域の交流人口拡大を図るとともに、文化観光交流拠点としての創出を図る必要があります。

「事業の概要」

本事業は、八甲田丸を中心として認定されている「みなとオアシス」の支援事業として、本港地区に点在する交流施設において、青函緑地・青い海公園・青森駅間の連携・回遊性を強化するため、護岸の改良及び遊歩道の整備をします。



平成20年度の予定

○平成20年度は、本港地区の護岸の改良および遊歩道の整備を行い、事業の進捗を図ります。

事　業　効　果

○本港地区の一体的な導線を確保する事により、周辺地域の交流人口の拡大が図られるとともに、文化観光交流拠点として賑わい空間の創出を図ることにより、住民・観光客が親しみやすいみなとづくりが促進されます。

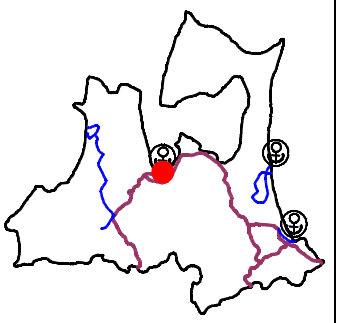
魅力ある都市づくり 「コンパクトシティ」の推進

事業名	まちづくり交付金「新幹線新青森駅(しんあおもりえき)・青森駅(あおもりえき)周辺地区」(補助:事業主体　青森市) (青森県青森(あおもり)市)

事業着手:平成18年度	完成・供用の目標年度:平成22年度完成予定

事業の必要性・事業の概要

青森県



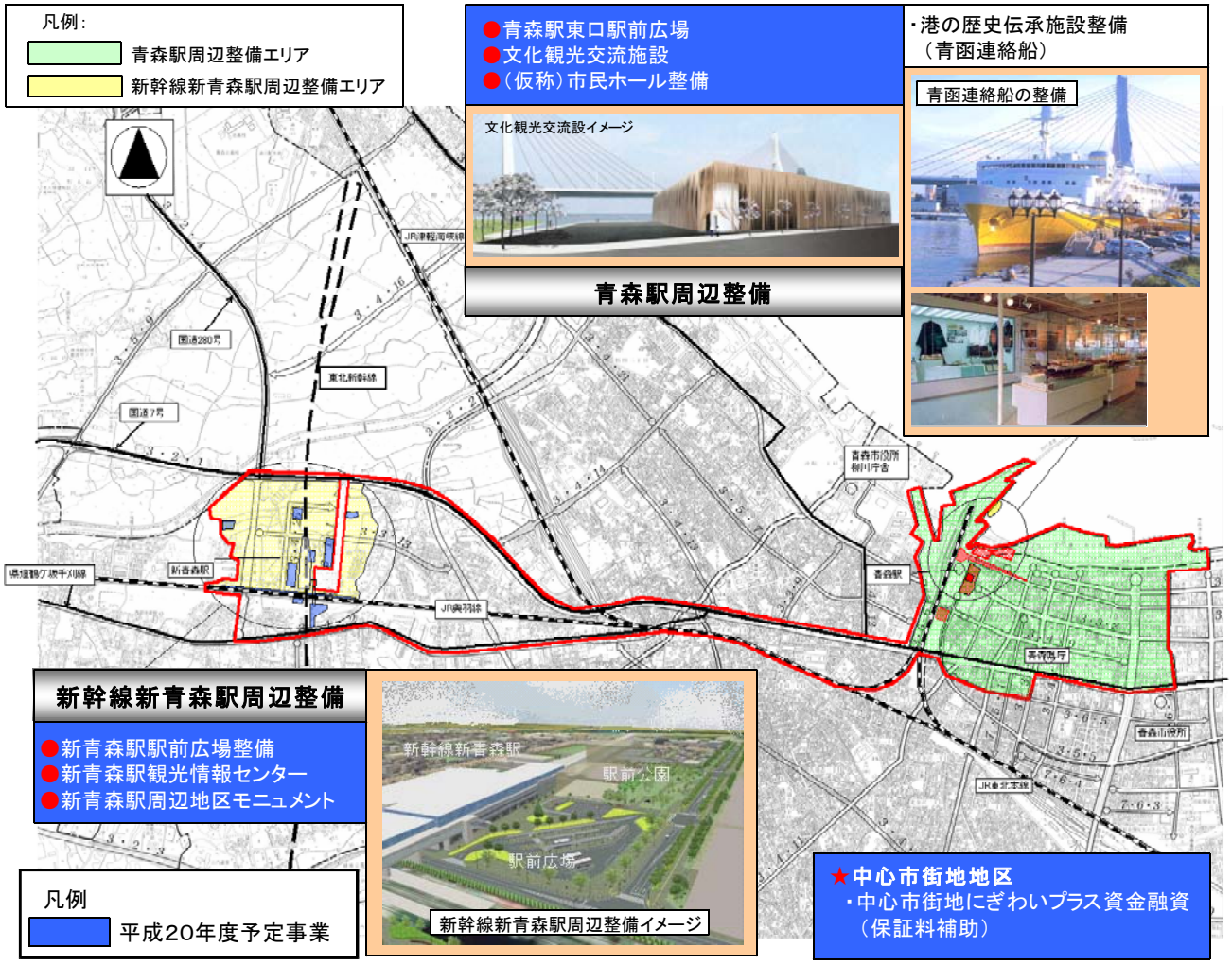
「事業の必要性」

平成22年度開業予定の新幹線新青森駅は、中心市街地から西4kmに位置しています。そのため、現在の青森駅のある中心市街地を賑わい機能を担う地区として、また、新幹線駅が整備される石江地区を広域交流拠点の玄関口として位置づけ、各拠点の機能分担と連絡強化を図り、新幹線の開業効果を中心市街地活性化につなげる必要があります。

「事業の概要」

青函連絡船を活かした港の歴史伝承施設整備を行い、中心市街地活性化を図ります。

新幹線新青森駅及び青森駅利用者の利便性向上の為、駅前広場・青森駅駐輪場整備を行うとともに、緑豊かな「青森らしい」景観形成に向けた駅前公園整備や駅前大通線の高質空間形成を図ります。



平成20年度の予定

○平成20年度は、道路や駅前広場等の整備を実施し、事業の進捗を図ります。

事　業　効　果

○青森駅周辺の拠点性・集客力の強化と様々な施策との連携を図る事によって、中心市街地の歩行者数の増加を図り、地区全体の賑わい創出に寄与します。
○新幹線開業効果を活かし、広域的な情報発信等により年間を通じた観光客の増加が期待されます。
○新青森駅および青森駅の案内機能・交通環境の向上と良好な景観形成により、駅利用者の利便性・快適性の向上に寄与します。

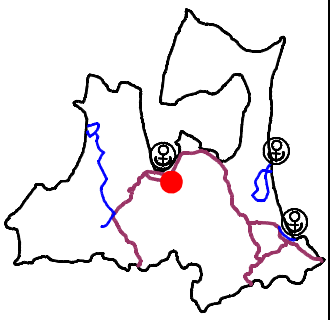
魅力ある都市づくり　都市内交通の円滑化

事業名	都市計画道路　内環状線（石江）（補助：事業主体　青森県） （青森県青森市）

事業着手：平成16年度	完成・供用の目標年度：平成22年度完成予定

事業の必要性・事業の概要

青森県



「事業の必要性」

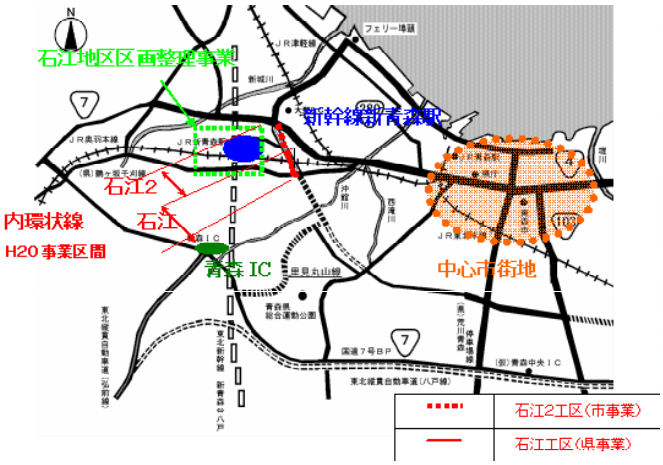
当該路線は、青森市の内環状線を形成し、東北縦貫自動車道青森ICや重要港湾青森港などの物流拠点等を連絡する重要な路線となっています。

また、平成２２年度には東北新幹線新青森駅の開業が予定されており、新駅へのアクセスを担保する関連街路としての整備が急務となっています。

「事業の概要」

当該事業は、ＪＲ奥羽本線によって南北に分断されている新駅周辺地区を大型ボックスカルバートにより地下構造で横断する全長524mの街路事業です。

また、当該工区に接する石江２工区（市事業）や隣接する区画整理事業とも一体となった整備を進めています。



＜位置図＞



＜上空写真＞



＜完成予想図＞

※ JR奥羽本線交差部

平成20年度の予定

○平成20年度は、用地補償を完了させるとともにトンネル工事に着手し、事業を推進します。

事　業　効　果

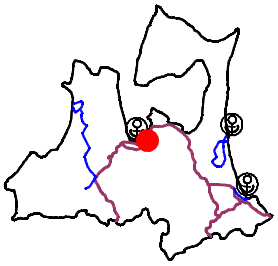
○東北新幹線新青森駅と青森市中心市街地及び青森IC等へのアクセス性向上により観光等の様々な経済効果が期待されています。

魅力ある都市づくり　都市内交通の円滑化

事業名	石江（いしえ）土地区画整理事業（補助：事業主体　青森市） （青森県青森市）
事業着手：平成14年度	完成・供用の目標年度：平成24年度補助完了予定

事業の必要性・事業の概要

青森県



「事業の必要性」

本地区は、青森市の中心市街地から西約４ｋｍに位置し、ＪＲ奥羽本線と東北新幹線が交差する形で新青森駅が計画されています。また地区の南方約２㎞には東北自動車道青森I.Cが位置し、県内でも有数の交通の要衝となっています。

平成２２年には東北新幹線新青森駅の開業が予定されており、関連する街路や駅前広場を含めた市街地整備等、新幹線の開業効果を最大限活かすための都市基盤整備が急務となっています。

「事業の概要」

土地区画整理事業として約46．2haの地内において、駅前広場、都市計画道路4路線及び公園等の公共施設の整備を推進します。



施行中の石江地区（地区中央を新幹線が通る）



整備が進められている新幹線工事



駅舎のイメージパース（縄文と現代との融合）



新幹線新青森駅周辺パース

平成20年度の予定

○平成22年の新幹線開業に向け、駅前広場及び地区内のアクセス道路の整備促進を図ります。

事　業　効　果

○本地区は東北新幹線新青森駅が設置されることから、中心市街地や津軽地域方面の玄関口として、広域交流の結節点機能を果たします。

○良好な居住環境の創出などにより健全な市街地の形成が図られ、青森市西部地区における中核的な役割を担う地区として期待されています。